

田村 広報

令和2年度 第1号
発行日 令和2年7月2日
発行人 会長 有賀 仁一
編集担当 田村方部

巻頭言

環境に負けない教育の充実を

田村地区小学校長会長 有賀 仁一

「♪豊なわり起き伏す山の…」母校田村高等学校校歌の歌い出しです。小・中の母校がなくなった私にとって、今も歌い継がれる貴重な校歌です。曲の後半には非常に珍しい男女に分かれた二部合唱がある美しい校歌で、いつか甲子園で流れてほしいと願っています。「豊なわり」には「幾重にも重なりあって連なる」、「起き伏す」には「地形の起伏」という意味があります。田村地区の地形をうまく表現した歌詞だと思います。

4月の総会のあいさつでも述べさせていただいたことですが、小高い山々に囲まれた田村地区は、磐越東線や幹線道路沿いに一定の街並みや集落がありますが、そこから外れた地区にも家々は存在し、集落を形成して人々は生活しています。今人気のTV番組「ポツンと一軒家」とはいかないまでも、地区内を走ると、こんなところにも家があるのかと驚かされることがあります。今こうした家々から通学している子どもがいます。地理的環境に恵まれず多くの困難や時間を費やして登下校する子どもがいることも分かっておきたいことだと思います。また、家庭環境や経済的環境に恵まれていない子どもも多くいます。学校に来れば、みんな同じですが、それぞれの子どもが背負っている環境・背景は様々だということも、改めて確認しておきたいことです。

さて、今年新型コロナウイルス感染症対策のために異例の対応が取り続けられています。3月4日からの臨時休業、「密」を防いだ卒業式・入学式、そして再び4月21日からの臨時休業、さらに5月7日からの延長。日々刻々と変わる状況の中で、その対応に追われているところです。

こうした中、ICT環境の差によって学力の格差が広がるのではないかと懸念する声が聞かれま

す。本校の場合、臨時休業開始当初は、学年末ということもあって、プリント等を活用した復習課題が主でありました。4月は、それだけでは工夫がないと、技能教科では鍵盤ハーモニカや縄跳びの練習、家の手伝いや掃除の課題、加えて外部からの募集があるポスターや習字作品の制作課題も与えました。さらに、文科省等の学習サイトや「NHK for School」等の紹介も行いました。一斉登校日にその取り組み状況を確認したところ、学年にもよりますが、与えられた課題について、8割前後がほぼ熟してきました。しかし、ICTを活用した学習については1割程度でした。まだまだICT環境が整っていない家庭が多く、当然の結果だとも言えます。一方、ICT環境が整っているところでは、TV会議システムを使った遠隔授業が行われたり、充実した学習サイトを見て学んだりしている子もいます。このような状況だからでしょうが、ICT環境の差による学力の格差を懸念する声が聞かれるのも当然かと思えます。

学校が再開されました。感染予防を図るために3密を防ぎ、新しい生活様式を徹底させていかなければなりません。新学習指導要領の趣旨をふまえた教育課程の完全実施に向けて、長期休業期間の短縮による授業日の確保も示されました。

いずれ様々な環境の違いはありますが、公教育のよさと使命は、どのような子どもも“その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する”という日本国憲法を具現することにあります。地域・学校・児童等の実態をふまえ、各種関係機関との連携を図りながら、様々な環境に負けない教育を充実させていく学校づくりに努めることが求められています。

今年1年間どうぞよろしく願いいたします。

地域と共に、学び進む学校

田村市立美山小学校長 小松 信哉

1 はじめに

今年度より田村市立美山小学校に赴任しました。船引地区での勤務は初めてで土地勘もなく右往左往しながらの生活ですが、今までの経験を生かしながら、気持ちを新たに、地域と共に、学び進む学校づくりを目指したいと思います。

2 美山地区・美山小学校の「美しさ」

美山の由来については諸説あるようですが、周辺の山名、宇津具志山(うつぐしやま)から転じて美しい山、美山となった説が有力なようです。(美山美山物語作成実行委員会(2011)美山美山物語～移ヶ岳由来から～)。

美しい自然に囲まれた美山地区、そして、移ヶ岳を背景に、147年の歴史をもち、多くの偉人が巣立った美山小学校に勤務できることを幸せに思います。



3 素直で個性豊かな子どもたち



1年生8名の入学式です。緊張しながらも元気に挨拶ができました。美山小学校は「あいさつ世界一」を目指してきました。

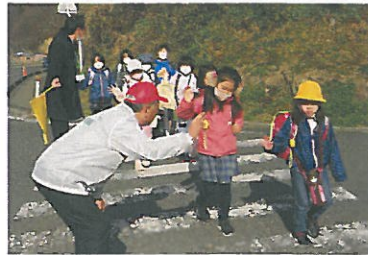
登下校時や校舎内での挨拶など、元気に礼儀正しく行うことができます。今年度は、加えて「ありがとう」が言える「感謝の心世界一」も目指していきます。

学習に対しても積極的で、発表することはもちろん、友達のことをしっかり聞いて、考えをつなげることができる子どもがたくさんいます。子どもたちの潜在能力の高さに驚きました。「子どもたちは、私たちの想像を越えてもっと伸びる」と思います。子どもたちの活躍が楽しみです。



子どもたちの「チャレンジ精神」と「可能性」の最大化を図る重責を感じています。

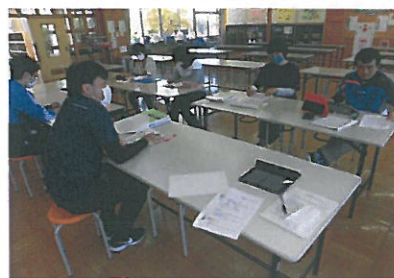
4 保護者・地域の皆様の協力体制



朝の登校時、必ず地域の方が安全確保のためのお手伝いをしていただきます。美山小学校周辺は交通量も多いのでとても助

かっています。また、放課後には「めだかの学校」があり、子ども達が放課後に学校で過ごすときのお世話をいただいています。保護者・地域の皆様のやさしさに包まれて、美山っ子は素直に成長しているのだと感じています。

5 子どもたちを大切に思う教職員



子どもたちの学力を向上させるため、授業改善について日常的に話し合う先生方です。新学習指導要領が目

指す教育理念のもと、「子どもたちは何ができるようになったのか」に焦点化した話し合いが行われています。

「子どもが真ん中の学校」「子どもたちの笑顔のために」頑張る先生方を誇りに思います。

6 おわりに

本校教職員、保護者・地域の皆様、田村地区校長会の先生方、田村市教育委員会の皆様など、多くの方々を支えられていることに感謝しながら、学校経営をしていく所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

瀬川小学校の校長として

田村市立瀬川小学校 湯浅伸二郎

着任早々のあわただしさも一段落したとき、学校要覧に改めてじっくり目を通しました。

要覧の表紙に校歌が載っています。歌詞1番の最初が「移が岳の 大空に」です。(校歌では「ヶ」ではなく、「が」で表記されています。)本校からは、移ヶ岳(標高994m)を目の前で見上げることができます。



「輪を描(か)く鳥は たくましく」「われらも高く 元気よく 平和の空に 巣立つのだ」と続きます。こういう子どもを育てるのが校長の役目だと、身を引き締めました。

歌詞2番は、「寒さに鍛え 雪に堪え」です。自然の厳しさがひしひしと伝わってくる文言です。4月当初のかなり寒い中、コロナ対応で換気も必要でしたが、休み時間、校庭で体を動かしている児童を見るとうれしくなりました。

「寒さに鍛え、雪に堪え」のあとは、「桜は開く」です。みんなで記念撮影です。前任の横田校長先生も、ここでの写真を掲載されておりました。



そして歌詞3番が、「キャンプは楽し 夏の山もみじの秋は 栗拾い きのことり」です。自然豊かな歌詞です。異動してきた教員も、この歌詞に「すごいな!」という感想を口にしました。歌詞のとおり教育活動はむずかしいでしょうが、「われらもやがて 新しい 稲穂のように みのるのだ」「つよくのびゆく つよくのびゆく」となります。しっかりと教育活動を進めます。

沿革を見ますと、本校も、創立は明治6年です。昭和22年に瀬川村立瀬川小学校【石沢分校・門鹿(かどしか)分校あり】、昭和30年に船引町立瀬川小学校と改称、などと記されています。昭和46年に門鹿分校が廃校、昭和50年に石沢分校が廃校となっています。そして、平成17年、田村市立瀬川小学校と改称されました。

明治時代からの歴代校長先生方の掲額写真(肖像画)を見上げると、非常に長い歴史を感じます。

本校は、3・4年、5・6年が複式学級です。教員組織を活用して、単学年で指導できる教科も設定して教育活動にあたっています。

複式学級は、教育課程編成から日々の授業まで、労苦は多くなってしまいます。ただ、それが前面に出してしまうと学校経営(学級経営)が先細りになってしまうので、「複式だからできない」ではなく、「複式だからこそできる」という認識で教育活動を行うよう、教職員には話しています。また、あたりまえですが、全教職員で全児童の指導にあたる、という認識を強く自覚してもらうようにも努めていきます。担任・担当任せで、外野で静観している教員がいる状況は、避けなければなりません。

最後に、昇降口前の掲示物です。子どもたちの夢実現に向けて、校長としての職務を推進します。



二度目の三春小勤務に思うこと

三春町立三春小学校長 猪狩 仁

田村地区で勤務させていただくのは7年ぶり、三春小学校は、およそ四半世紀、24年ぶり2回目の勤務となります。

4月1日、職員室のホワイトボードには下のよう写真が「歓迎」というポップと一緒に飾られていました。写真には、全国小学生陸上競技交歓大会県中地区予選、平成8年6月16日、開成山陸上競技場という説明書きが添えられていました。三春小学校3年目、体育主任として子どもたちを引率して行ったときの写真です。

ちなみに、写真の右端が前三春小学校長の箭内良一先生、左から二人目が現船引小学校長の有賀仁一先生です。



昨日食べた夕飯の献立さえ思い出せない私ですが、この写真を見たとき、四半世紀も前のことが鮮やかによみがえってきました。それもほろ苦い思い出ばかり。

平成6年4月、私は福島大学大学院からの戻りで三春小学校に着任しました。当初は2年間の学生暮らしと教育現場のギャップの大きさに戸惑い、不眠症に陥ってしまったことを思い出します。そんな神経質な部分とは裏腹に、30代前半の生意気盛りだった私の、相手が誰であろうとお構いなしの言動はあまりにも傍若無人で、諸先輩方にはとんでもない生意気な若造と映っていたのだらうと思います。その後、私は長男の三春小学校入学を機に、わずか3年で転勤することとなります。

今回、私は三春小学校勤務の内示を受けた時「ありがとうございます。」という感謝の言葉を述べつつ、「まさか、私じゃないでしょ。私でいいんですか。」と心の中でつぶやいていました。

ところで、三春小学校を象徴する建物といえば、この明徳門でしょう。明徳門は三春藩講所の表門



で、戦後この場所に移築されました。全児童が毎朝この門をくぐって登校してきます。私は、長い階段とセットになっていることがこの門の美しさを際立たせていると感じています。少し古くなってしまった校舎も、傾斜地に建設されたことで、美しい景観を生み出しているのだと思います。



以下は、4月に発行した学校便りの一文です。

ところで私の「三春小学校の好きなところ」の一つに、三春小学校の景観があります。桜が満開の通路、そして子どもたちが毎日通る明徳門…。私は、この美しさを作り出している条件の一つに、本校が傾斜地につくられていることがあると思っています。その美しさとは裏腹に、傾斜地につくられているマイナス面もあります。それは多くの危険が潜んでいるということです。

私たちには、子どもたちに安全・安心な場所を提供する責任がありますが、例えば、学校の立地条件などのように、取り除けない危険もあります。

学校は社会の縮図です。学校は無菌室のような場所ではなく、危険が隠れている場所であることに気付かせ、その危険を未然に回避する力を育成することが、とても大切なことだと考えます。

四半世紀前、職員ソフトボールの練習で、下校庭から上校庭までボールを飛ばし満足している自分はいましたが、この場所は「危険だ」と感じる自分はいませんでした。

そして今、ほんの少しだけ成長して三春小に戻って来られたかなと感じています。

残された時間、三春小学校に関わるすべての児童、保護者、地域、そして教職員のため全力を尽くしてまいります。宜しくお願いします。

素晴らしい伝統を引き継いで

三春町立岩江小学校 渡辺 和也

1 はじめに

4月1日、三春町立岩江小学校に着任いたしました。田村地区での勤務は初めてであり、田村地区小学校長会の皆様には、ご迷惑をおかけするかもしれません。また、先輩の校長先生方、教職員の皆様が築いてこられた岩江小学校の素晴らしい伝統を守っていくことの重さを、強く感じているところです。微力ではありますが全力を尽くしたいと思っておりますので、ご指導よろしくお願い申し上げます。



岩江小学校南側、駐車場の桜です。

学校のすぐ近く（東側）には、三春で一番早く咲くという「今朝三桜」もあります。

2 小学校の思い出から

遥か昔、私は三春小学校に2年間、御木沢小学校に4年間通学しました。三春小1年時の担任Y先生は図工が専門であり、今思うとY先生の図工の授業は相当高度だったと思います。御木沢小学校に転校し、6年時の担任S先生も図工が専門でした。S先生の図工の授業は、三春駅近くまでスケッチに行くなど、本当に楽しく、うまくいかないような時も「力作だな！」と笑顔で褒めていただきました。いつしか私は、美術教師の道を志すようになりました。筆やパレットの使い方、混色の仕方など、美術の基礎を厳しく教えてくれたY先生、表現の楽しさに気づかせ、「自信」をもたせてくれたS先生・・・感謝の気持ちでいっぱいです。

小学校の先生の「一言」は非常に重く、1時間1時間の指導が児童の将来につながっていることを実感しています。本校に受け継がれ、学校経営グランドデザインにも明記している「児童第一主義」、「寄り添う姿勢」の意識を共有しながら、岩江小学校児童に「学びの楽しさ」を伝え、「夢」を育めるよう取り組んでいきたいと思っております。

3 岩江小学校のよさを生かして

岩江小学校は、昭和38年の開校以来、児童の努力はもとより、多くの先輩方のご尽力により実績を積み重ね、本年度57年目を迎えました。児童数は270名、昨年度より増です。

学校に対して非常に協力的な地域であり、保護者の皆様、関係機関からのバックアップは強力です。隣接する岩江センター、岩江駐在所等からも本当に多くの支援を毎日いただいております。

またご存知のとおり、昭和60年には、その当時全国的にもめずらしい「オープンスペースの学校」として現在の校舎が完成し、連日のように見学者が多かった、と伺っております。校舎内は空間にゆとりがあり、この点でも恵まれた環境です。

さらに、先生方のチームワークがよく、職員室に笑いがあふれていることも有り難いことです。このことは、3月末に前校長先生との引継ぎでお邪魔した時から感じていました。今後も、互いの仕事がよく見え、助け合う「ボトムアップ型ワンチーム」として児童のために進んでいきたいと思っております。



広い空間を利用して3密にならない芸術鑑賞、「岩江小学校ギャラリー 芸術家による作品展示1 柳沼理穂展」を開催中。黒板アートも描いていただきました。（次回は写真家の方に協力依頼しています。）

4 おわりに

上記のような思いはありますが、感染症拡大防止の取り組み、そして新しい生活様式の対応などに追われ、なんとか二ヶ月が終わった、というのが正直なところです。その間、田村地区小学校長会の先輩の皆様には、何度もお電話等でご相談申し上げてしまいました。今までにない難局ではありますが「人生は縄暖簾、悪いときもあればいいときもある」と自分の心に言い聞かせ、一年目をのりきりたいと思っております。どうぞよろしくごお願い申し上げます。

環境が変わる

三春町立中郷小学校長 今井不二子

今年度より、田村支会のメンバーに加えていただき、ありがとうございます。特に、今回の異動では、児童にほとんど会うこともないまま学校を離れ、離任式で児童に伝える言葉を発することもできず、職員との送別会もなく（送別式はありましたが・・・）、最低限の感謝の気持ちや御礼は伝えたものの、やり遂げたという達成感や満足感が欠けたまま、中郷小学校に着任したように思えます。内面はネガティブな人間ですが、日頃から「時を逃さず」「チャンスを生かす」の精神でいたことは、少しばかりの救いとなりました。そう思うと、年度末に御退職された校長先生のお心はいかがなものかと大変いたたまれない気持ちになります。

このような心境の中の異動となりましたが、田村支会では、これまでにお世話になった校長先生のお顔も拝見することができ、もやっとした気持ちはすぐに解消されました。しかし、新型コロナウイルスの感染症対策、臨時休業によって生じた児童の学習や生活の指導など、次々と乗り越えなければならない課題もあり、すでに、多くの校長先生方から御教示や御助言をいただき、なんとか6月中旬を迎えました。校長先生方の御都合を考えずに、突然、電話をかけてしまったこともあり大変失礼をいたしました。そして、これからも、どうぞよろしく願いいたします。

さて、「勤務地が変わる」、「環境が変わる」ということは、教職員であれば誰でも何度も遭遇し決して避けられないことです。最近はずいぶん改善されましたが、「知らない土地」で、「初めて出会う方々」と「初めてで知らない仕事」をすることはよくあることです。実際に、自分を振り返ってみても、5市町でのべ11校での勤務、また、小学校、中学校、小中一貫校も経験し、その中には新設校や閉校した学校もあります。そして、生徒数1,000名を超える県下一のマンモスや、児童数10名を切る小規模校もあります。地域も校種も役職も違い、下は小学校2年生、上は中学校3年生を担当するなど様々な仕事をし、様々な人と出会いかわってきました。自称「人見知り人間」の私は、異

動の都度、また一から始めなければならない「ゼロへのリセット」となることは大きな緊張感をもちます。そして、せっかく作り上げたのにといい思いと、これ以上は手の尽くしようがないという思いが混在し、これまでの経験から次に生かせることはあるのだろうかと思ひながらも、「今度こそは」とか、「〇〇をやってみよう」とか、新たな目標や楽しみをもつことでモチベーションを高めて気持ちを切り替え、環境が変わることも楽しみ、ため息をつかないようにすることにしました。

着任した中郷小学校は、学区に国の天然記念物に指定されている「滝桜」があり、特色を生かした教育活動が盛んです。これを「二度と味わえない楽しみ」としました。また、前任の校長先生との引き継ぎで、「来年から三春中学校と食育を実践することになります」というお話を伺い、避けては通れない課題もできました。どちらも中郷小学校でしかできない教育です。



令和2年度は、お客様が出席しない入学式となり、PTAや地域の会合も6月まですべて中止となりました。そのため、着任をしてからはあいさつをする場面がほとんどありません。そこで、教職員の顔写真を入れた学校だよりを保護者に配付したり、御挨拶の電話をいれたり、特色ある教育活動を進めるために積極的に働きかけをしています。緊急事態宣言が解除され、先生方は学級づくりと学習の遅れをとりもどしながら、少しずつ今後の教育活動の修正を図っています。この2ヶ月で、子どもらしい子どもたち、気がついて率先してがんばる教職員、協力的な保護者と地域の方であることが、次々と感じられうれしく思います。

環境が変わったのは、私や転入した教職員だけではなく、今年度は、異動がなかった先生方にとっても「初めて」の対応が多く、このことも「環境が変わる」ということになります。このいつもの年とは違っている今年度は、制限のある「滝桜」にかかわる学習活動と初めて取り組む「食育」の中で、子どもたちのために教職員、保護者、地域をつないで楽しく体験活動することを「緊張感」ではなく、私自身の「楽しみ」と「エネルギー」にしたいと考えます。



令和2年4月開校しました！

教育目標：未来に向かって 夢をもち続ける子ども

小野町立小野小学校

～飯豊小、浮金小、夏井一小、夏井二小、小戸神小、

そして、小野新町小の伝統を受け継ぎ、未来を拓き創る教育を目指して～

新しい風を…

小野町立小野小学校長 小荒井新佐

この4月、小野町の4つの小学校の統廃合で小野小学校が開校しました。校舎は小野新町小の校舎を使うので、自分が勤務していたころの思い出がそのまま残っていました。校長室にいてもその主は自分ではなく、先輩の校長先生方のような錯覚を起こしてしまいがちです。

そこで、校長室を自分なりの校長室にしようとしています。

まずは、重厚な校長室の椅子を職員室に余っていた普通のひじ掛けなしの椅子に変えました。立ったり座ったりがしやすく、パソコンも操作しやすいからです。座り主がいなくなった重厚な椅子には、犬のぬいぐるみを置きました。「だっくん」と2年生の女の子に名付けられたこのぬいぐるみは、たまに遊びに来る子どもたちのマスコットになっています。

5月には校長室にたくさんの絵本を自宅から運びました。その中心は「かがくのとも」としかけ絵本です。

今週は、校長室に不思議な動きをする「スペースレール」と木製の脳トレグッズを運び入れました。脳トレグッズは、「15ゲーム」と「タングラム」、そして、「ハノイの塔」です。どれも子どもを校長室に呼び込む小ネタです。「ハノイの塔」は、誰が何手で塔の移動が完了したかを記録していきたいと思っています。

小野小学校は、全校児童459名で出発しました。元気に外で遊ぶ子どももいれば、外遊びが好きではない子どももいます。外遊びは若い担任の先生方に任せ、自分はゆっくりした時間を過ごしたい子どものために、校長室を開放し、算数や科学、絵本にふれる楽しさを味わわせてやりたいと思います。校長室は、お客さまを迎えたり、先生方と会議をしたりする部屋という既成概念を少し捨ててみようと思っています。

実は、これは私の持論ではありません。『校則を

なくした中学校 たったひとつの校長ルール（西郷孝彦 著）』の中に「校長室は生徒のたまり場」という章があり、校則だけではなく、宿題も定期テストもなく改革を行ったある校長先生の取組をまねてみました。小野小学校は新しい学校なので、まずは、校長室から新しい学校にしていきたいと思っています。

今、働き方改革が問われています。新しい学校なので、いろいろなものをなくしました。

学級経営誌はなくして、生徒指導個票だけにしました。週案はなくし、月案にして本時のねらいを書くスペースや週ごとの反省を書くスペースをなくしました。先生方の時間外の街頭指導もなくします。7日間確保していた「自宅訪問」を「地域訪問」にして1日だけにしました。前述の本にあった「宿題をなくす」…これを最終目標にして何年かかけて新しい学校を創っていきたくと思います。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大、190人が通う11台のスクールバスの発着場の問題（現在、校地内にバスターミナルはありません）、学校周辺の道路工事とそれに伴う学校敷地内の工事と問題が山積しています。PTAも正式に発足していません。何よりも、小さな学校から来た子どもたちの心の状態が心配です。また小野町の小学校がひとつになったため、校長として相談できる方が限られてしまう等の弊害もあります。ですから、田村地区の校長先生方には、たぶん、頻繁に電話をさせていただくことと思いますので、ご協力、ご助言のほどよろしくお願いいたします。



【デザインコンセプト】

「小」をモチーフに、町の花「ツツジ」を記し、心豊かな自然に囲まれた小学校周辺と「小」の文字を表し、統合した4小学校の歴史や伝統・始学・スポーツ・文化のあらゆる情報交流の輝と魅力発信をイメージしています。みんなの温かい愛情に包まれ、児童の将来への大きな「夢や希望」を目標に更なる飛翔・発展・向上する明るい元気の活気にあふれる「小野小学校」の輝かしい姿をアピールしています。

【考案者】

氏名：井口やすひささん

住所：群馬県高崎市

職業：アートディレクター・グラフィックデザイナー